

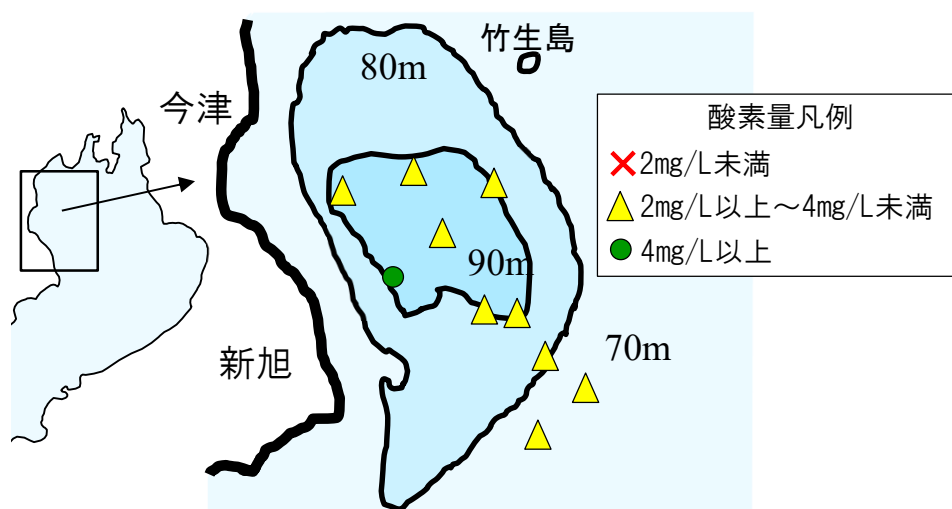
北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

2025年1月24日
滋賀県水産試験場

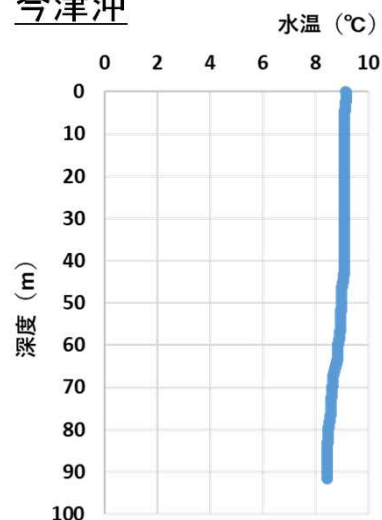
琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。

そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。

○湖底等の酸素量(2025年1月14日～16日時点)

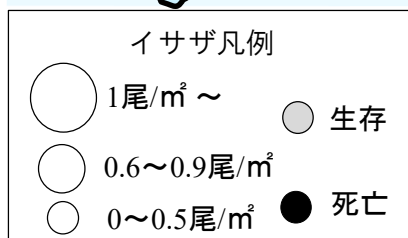
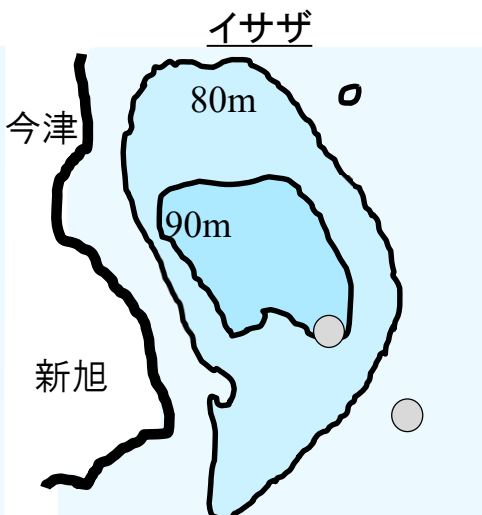
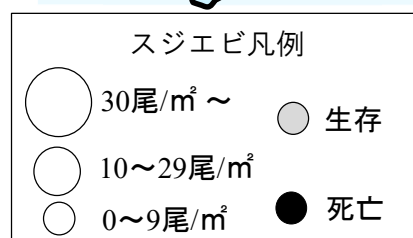
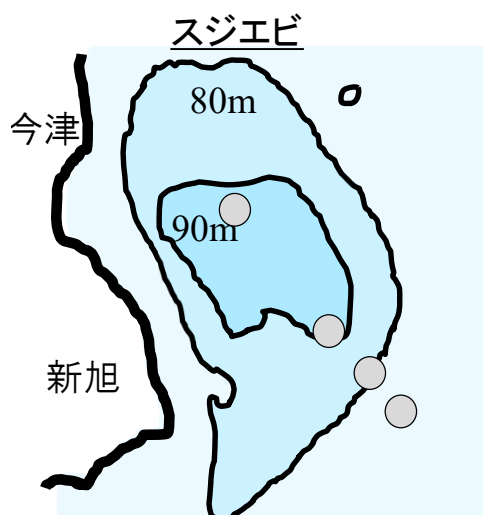


今津沖



- ・湖底直上1mの酸素量は水深90mの全地点で2mg/Lを上回りました。
- ・表層水温は9.1℃、湖底水温は8.4℃でした。

○スジエビ等の生息状況(2025年1月16日時点)



- ・スジエビ
生存個体は全地点でわずかに確認され、死亡個体は確認されませんでした。

- ・イサザ
生存個体は新旭沖の水深90m地点と水深70m地点でわずかに確認されました。死亡個体は確認されませんでした。